

第1号議案 2014年度 事業報告

1. 事業実施報告

私たちは開設17年目、法人格取得後13年目を迎えました。事業高は42,134,894円計画比110%達成しました。今年度もヘルパーの人手不足のため、募集対応に対処しましたが解決には至らず継続課題になりました。

助け合いサービス事業(移送サービス含む)は、掃除・移動見守り・病院内介助・外出介助・介護保険併用の乗降介助など毎月10名程度おり、地域社会資源として私たちの助け合いサービスの仕組みが有効に活用出来ました。

人手不足にて、急な対応が出来ない時もありましたが、出来るだけ調整を行い、サービスが提供できるように努めました。今後は、地域ニーズに応えられるように助け合いサービス利用の拡大を進めていきます。

居宅介護支援事業は常勤・非常勤4名で利用者に必要なサービスが提供できるように、連絡・調整・相談を行い、他事業所との連携を図りました。

今年度は新人非常勤ケアマネ2名加わり、毎月のケアマネ業務会議・事例検討会・朝のミーティングなど行い情報を共有し、新人研修に力を注ぎレベルアップに努めました。

研修は地域包括支援センター(5ヶ所)・富士見地区ケアマネジャー連絡会主催などの研修に積極的に参加をしました。又地域ケア会議に出席して多職種の方々と地域の課題などについて意見交換を行いました。

今年も11月に利用者アンケート調査を実施しました。情報の提供を優先課題にして取り組んだ結果、利用者の満足度が高めることが出来ました。利用者の意見に耳を傾け、今後も満足が頂ける様に対応していきます。

訪問介護事業は、今年度もヘルパー不足対応に奮闘しました。募集内容を分かりやすいチラシを作成し、従業員全員による2回のチラシまき、退職者への呼びかけ、富士見市初任者研修生の就職説明会への参加等行い、2名採用できました。今後も知恵を出し合って、ヘルパー採用が出来るように努めていきます。

研修については、年間計画に沿って行っています。現場に生かす実技DVDを見ての勉強会・グループワークにて発表するなどレベルアップを図ることができました。又排尿体験(オムツを一晩当てて寝る)や塩分3gの調理実習など行い、ヘルパー同士で情報の共有が出来ました。

今年度はシフトの確認が出来たことで、訪問ミスが少なくなりました。今後も時間に余裕をもって、訪問ミスや事故が起きないように注意をしていきます。

障害福祉サービスは、重度訪問介護の継続が男性ヘルパーの採用により可能になりました。複数対応で負担が軽減できました。定期的な利用は対応出来ますが、急な依頼は人手不足のため厳しいと思われれます。

移動支援事業は、年に数回利用している方がいます。夏にはデング熱騒動があり、蚊にさせないように気を遣いました。

生活サポート事業は、職員が7月に1人退職した為、運行に支障がありました。今まで無理に乘せていた車椅子対応の利用者は、他事業所利用に変更して頂きました。

現在は、新しい職員が入り4人体制で運行しています。

地域ニーズに即した事業推進として、H26年7月から「カフェみずほ」を開催しました。介護者支援を目的に当事者の方もご利用いただけるという想いでオープンしました。月に1回ではありますが、コーヒーを飲んで、おしゃべりをしていくことで少し気持ちが楽になって頂けていると思います。

来年度は、助け合いサービスの中に組み込んで行きたいと考えています。

平成27年4月に大幅な介護保険法改正が行われます。団塊世代の高齢化(2025年)をどのようにして乗り切ることが出来るかが大きな課題になっています。

富士見市では、要支援者に対する訪問介護サービスは市町村の地域支援事業へ2年後に移行の予定で、地域包括システムの充実に向けた見直しが行われていきます。

私たちは地域貢献が出来るように情報収集を行い、体制づくりを進めていきます。

私たちは「地域で困っている人達のお役に立ちたい」という想いで開設し、地域社会福祉の発展向上に寄与する目的を持って活動を続けています。

今後も住み慣れた地域で、在宅生活が続けられるための必要なサービスを提供できるように、福祉関連事業所との連携を図りながら、事業の安定・維持・向上に努めてまいります。